

(第2号様式)

神奈川県教育委員会教育長殿

県立平塚江南高等学校長

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①SSH事業を計画実施し、探究的な学習や活動を通して様々な課題を解決し、社会に貢献しようとする強い意志を持った生徒を育てる。</p> <p>②国内外での多様な関わりの中で、情報活用能力、問題発見能力、論理的思考力等の資質・能力を向上させることにより視野の広い生徒を育てる。</p>	<p>①SSH指定校として、生徒に身に付けさせたい8つの資質・能力（情報活用能力/論理的思考力/問題発見・解決能力/課題設定力/課題解決構想力/協働解決力/国際通用力/倫理観）の向上を図るために、「単元の指導と評価の計画」の設計及び改善に向けた授業実践を組織的に行う。</p> <p>②行事や生徒会活動において、生徒が主体となって組織的な運営を行い、資質・能力を向上させる支援を行い、教科外活動の充実を図る。</p> <p>②左記の資質・能力を育成する学校行事計画や生徒会活動に取り組む。</p>	<p>①SSHⅡ期の申請に向けて、生徒による授業評価やSSHに関するアンケート調査、アセスメント等の結果から、資質・能力の向上を見取ることができたか。</p> <p>②行事や生徒会活動において、生徒が主体となって組織的な運営を行い、資質・能力を向上させる支援を行い、教科外活動ができたとの回答が90%を超えたか。</p>	<p>①生徒による授業評価において、項目3「単元の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。」の最高評価の回答率が全体の47.4%であった。</p> <p>・生徒に身につけさせたい資質・能力について、経年で見取ったところ、特に、「課題解決構想力」について、4段階のうち最高評価が1年19.5%、2年47.0%、3年79.4%と大きく向上した。</p> <p>②「充実した教科外活動ができた」に「当てはまる・どちらかというと当てはまる」と回答した生徒は94%で目標を達成した。</p>	<p>①生徒による授業評価は、最高段階の評価4を50%以上を上回ることを目指し、年度当初から職員研修等で全体の意識づけと、具体的な取組事例の共有を図る。</p> <p>・資質・能力については、次年度以降のSSH事業の取組に伴い、各教科で資質・能力を測定するループリックの作成、実施、改善に努める。</p> <p>②左記結果のうち「当てはまる」66%、「どちらかというと当てはまる」28%である。当てはまると回答する生徒が増えるよう、各行事での事後アンケートの分析を行い、改善を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価において、一定の成果がみられるが、授業だけでなく、考えられるテスト問題を作成するなど、工夫が必要。</p> <p>②現在の取組をさらに確実にし、満足度を高めてほしい</p>	<p>・生徒の授業評価アンケートで、課題に関する項目について情報共有し、教員の課題認識や委員の助言から課題を把握し、改善策のヒントを得た。</p>	<p>・身につけたい能力や今日の授業の目標等を生徒に説明し、積極的な授業参加をもとめていく。</p> <p>・授業において本質的な「問い合わせ掛け、教員と生徒が授業のねらいを共有し、学校の存在意義を感じられる授業を構築するために、組織的に協働して取り組む必要がある。</p>	
2 生徒指導・支援	<p>①心身を健やかに保ち、自己理解及び他者理解ができる生徒を育てる。</p> <p>②部活動の活性化を通して責任感や連帯感の意識を涵養する。</p>	<p>①生徒の悩みや困っていることを積極的に把握し、解決に向けて、外部機関等の連携を行い、支援の充実を図る。</p> <p>・生活規律を確立させる指導を行う。</p> <p>②部長会を定期的に開催し、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>②部活動を通して主体的に行動できる生徒の育成を支援する。</p>	<p>①「かながわサポートドック」等の取組やSC・SSWとの連携により、効果的な支援を行う。</p> <p>・全校集会やHR等において登下校時の自転車や公共交通機関乗車に係るマナー、挨拶励行などについて生徒に考え方させる指導を行う。</p> <p>②部長会での決定について、生徒が実践し、主体的な活動をすることことができたか。</p>	<p>①・サポートドック等の取組を通じて、SCやSSWと連携し効果的に支援することができたか。</p> <p>・生徒の自律的態度が定着し、近隣住民等の外部評価が向上したか。</p> <p>②部長会での決定について、生徒が実践し、主体的な活動をすることことができたか。</p>	<p>①・かながわ子どもサポートドックを、3回実施した、問題が表面化していない生徒の早期発見につながった。</p> <p>・ケース会議を1年生5件、2年生3件、3年生4件実施した。</p> <p>・自転車事故件数は8件(昨年度10件)大きな負傷はない。</p> <p>・自転車苦情件数は年間11件(後期は減少)</p> <p>・生徒指導案件では、スマートフォンの不適切な使用、生徒間のトラブルにかかるものがあった。</p> <p>・挨拶励行は浸透しており、来校者からの評価が高い。</p> <p>②部長会を4回行い、活動環境の整備や活動時間の管理を行った。</p>	<p>①・担任等と生徒の面談時間と場所の確保が必要である。</p> <p>・引き続き、自転車乗車マナー、SNS使用上のモラル向上について、HR等を通じて指導していく必要がある。</p> <p>・スマートフォンの適正な使用について啓発を繰り返す必要がある。</p> <p>・挨拶励行を推進する。</p> <p>②活動場所の整備ができていないことや、下校時間を超過するなどの課題が残っている。代表者1名だけでなく、2名を招集するなどして、主体性だけでなく継続的な活動を促す必要がある。</p>	<p>①サポートドックや教育相談において、SC・SSWと連携することにより、効果的な支援ができている。</p> <p>・場所の確保には校舎新築が必要である。</p> <p>②自律的な活動と継承を促す具体的な工夫が必要。</p>	<p>・サポートドック等を活用して効果的な支援ができた。今後も早期発見、早期対処に取り組む必要がある。</p> <p>・支援学校のセンター的機能を活用し支援の充実を図ることができた。</p>	<p>・場所の確保は校舎新築が必要である。</p> <p>・部長会、生徒会執行委員等への自律的活動を促す問い合わせかけと、場の設定を充実させる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①より高いレベルの進路実現に向け、持続的に力を尽くすことのできる生徒を育てる。 ②何事にも果敢に挑戦する態度を育み、社会をけん引することのできる、未来を拓くリーダーを育てる。	①生徒の学習状況を細かに把握するとともに、必要な情報を適宜提供し、最後まで諦めさせない進路指導を貫き、生徒の希望の実現を支援する。	①生徒が進路の実現に向けて「振り返り」を行い、「見通し」をもって学びを進めていくように支援し、データを示して前向きに取り組む助言を行う。	①進路通信や進路講演会及び面談において、最新の必要な情報を提供できたか。	・進路行事、進路相談、面談等を通して、また classroom を活用して、最新の情報を提供し、きめ細かな指導ができた。	・高い志を持たせ、3年間を通して、進路行事や進路相談、面談等を通して、進路実現に向けて意識付けをより行う必要がある。	・きめ細かな指導がなされている。 ・高い希望を持たせチャレンジする気持ちの醸成をしていただきたい。 ・生徒に自己肯定感を持たせ、進路実現に向けて立ち向かう気持ちを持たせてほしい。	・生徒保護者の進路についての志向について情報共有することができた。	・同窓会、地域企業との連携など、キャリア形成の端緒となる場の設定をする。
4	地域等との協働	①地域社会と積極的に関わり、社会と学校が連携し、安心安全な環境づくりに取り組む。	①地域社会の資源を活用した教育活動の充実、及び地域活性化行事への参画支援を図る。	①キャリア支援において、地域社会の資源を活用した取組、及び地域活性化行事への取組を支援する。	①同窓会、PTA を含め、地域社会の資源を活用し、生徒の主体性を育む取組ができたか。	①11月12日に防災教室を開催し地域の方の参加が20名あった。 ・生徒会組織を活用した地域への働きかけを強化した。 ・スタディアシスト、公民館主催の書道教室が好評であった。	①地域との連携をどのように広げてゆくかが課題である。 ・地域からの要望を聞き取れる体制を検討する必要がある。	①生徒と地域住民間で顔の見える交流が望まれる。生徒が学校の魅力を発信していくとよい。	・一定の交流活動はあるが、地域住民と生徒が直に交流する場がさらに望まれる。	・自治会活動との連携の場を設けることや市内イベントへの参加を増やす。
5	学校管理 学校運営	①教育公務員としての高い倫理観を保持し、健全な職場環境を作り、事故不祥事防止に努める ②すべての教員が学校教育目標を共有し達成に向けて協働して取り組む学校文化を継承する ③学校運営協議会をいかした学校運営を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	①リスクマネジメントを強化するとともに、ワークライフバランスの推進に向けて、業務の精選・効率化を図る。 ③ホームページ等で本校の特色、教育活動や成果等の魅力を発信する広報活動を充実させる。	①・不祥事ゼロプログラムを遂行する。 ・業務の精選と ICT の利活用による校務の効率化を図る。 ③小中学校等地域への情報発信を積極的に行う。	①不祥事防止研修を計画的に実施できたか。業務の効率化を図ることができたか。 ③学校説明会や学校行事の情報をホームページ等で逐次発信することができたか。	①企画会議毎に、教育委員会作成の啓発資料を用い、不祥事防止会議を行った。その後、各グループで研修を継続的に行つた。不祥事ゼロを実現。 ③ホームページや SNS(X)を通じて、学校説明会や学校行事についての情報を効果的に発信した。Xの更新頻度をあげ、様々な情報を発信した。これらにより志願者増の効果が見られた。保護者からも好評であった。	①各グループでの研修で出した意見等を全体で共有し、組織として不祥事防止について取り組む意識を高める必要がある。 ③学校の情報をホームページ等により、伝わりやすさを工夫したうえで広報する。地域でのボランティア活動等を通して小中学生との交流を持つ機会を増やすよう検討する。	①小グループでの研修は効果的であり、継続するとよい。 ②学校目標の共有について深化が望まれる。 ③広報について一定の効果があつたが、生徒が直に小中学生に関する場をつくることにも力点を置くとよい。	①リスクマネジメントが適切に行われている。 ②学校目標の共有について深化が望まれる。 ③広報活動が充実し、成果も見られる。生徒と小中学校生との交流の場の拡充が望まれる。	・教員の長時間勤務の是正に向けて、個々の意識改革を実現する。